



福島県立だて支援学校
NO.3 R5.2.24

校長あいさつ

保護者の皆様、地域及び関係機関の皆様には、本校の教育活動に、御理解と御協力をいただき心より感謝申し上げます。

令和4年4月1日、ここ伊達市保原町大泉の地に伊達地区（伊達市、国見町、桑折町、川俣町）の皆様、特別支援教育に関わる全ての方々の熱意と情熱により、開校いたしました。4月6日に始業式、入学式では、児童生徒、保護者の皆さんが待ちに待った笑顔で登校して初日を迎えることができました。

さらに5月13日には福島県知事様、福島県議会議長様、伊達市長様はじめ多くの来賓の方々の御臨場のもと開校式を挙行することができました。「誓いの言葉」では「春風を感じながら歩いて登校しています」【中学部生徒】、「これから私たちはだて支援学校の歴史を創っていくことになります。だて支援学校の学校生活を通し、社会の一員として、自分で考え行動することができ、心と体の健康を大切に、助け合いと協力ができる大人になっていくことをここに誓います」【高等部生徒】と、各学部の代表が、自分の言葉で堂々と誓いを述べました。その言葉には聞いている者を感動させる力がありました。

コロナ禍にあって、感染症対策を十分に講じながら教育活動を充実させてまいりました。特筆すべきは「だての資源」を活用した活動でした。小学部は、梁川郵便局を見学させていただき郵便のしくみについて学びました。見学後は、実際に「モモのさとゆうびんきょく」を校内に開局し、児童生徒、教員の郵便物を集配し、振り分け、配達をしました。小学部段階でのキャリア教育の一端を見ました。中学部は、地域の方をゲストティーチャーに迎え、干し柿作りに挑戦しました。いくつもの工程を分担しながら責任を持って取り組みました。高等部は近隣の大泉公園の清掃を地域の方々と協働で実施しました。基本的な用具の使い方、掃除の手順など丁寧に教えていただき、自分たちも地域貢献できる事を教えていただきました。地域の方々にお力を頂きながら、ビジョンに掲げた「伊達地域で共に学びともに生きる」実践ができました。この伊達地区にある特別支援学校としての存在意義を実感したところです。

今後とも、本校に関わる全ての方々のご期待に応えられますよう、また「地域と共にある学校」となるよう、目指して参りますのでどうぞよろしくお願いいたします。

福島県立だて支援学校長 本田知史



小学部より

2月のはじめに、小学部3年2組、4年2組、3組の7名の児童で「お店屋さんをしよう」の学習を行いました。ラーメン屋、ケーキ屋、お寿司屋、おもちゃ屋、カフェと、児童がそれぞれやってみたいお店を開くことにしました。お店の商品は、紙粘土や毛糸、お花紙などを使ってイメージを広げながら作りました。お店屋さんとお客さんを順番に行い、自分のお店にお客さんが来ると張り切って接客したり、友達のお店の商品を見てワクワクしながらやりとりをしたりと、興味を広げ、楽しく活動しました。



中学部より

1月31日（火）に第2学年は、保原体育館で行われた「伊達市立志式」に参加しました。立志式はⅠ部式典、Ⅱ部芸術鑑賞会の2部構成で行われました。式典では、立志証書授与、伊達市長の式辞、代表生徒による誓いの言葉等があり、生徒たちは少し緊張しながらも落ち着いて厳粛な式に臨むことができました。



芸術鑑賞会ではナチュラルダンスアトルによる現代舞踊「さーかす」を鑑賞しました。講演終了後、劇団の方への花束贈呈があり2年2組の鳴原恒河君が代表としてお礼の言葉と花束贈呈を行いました。とても立派なあいさつができました。生徒にとって、大変思い出深い式になりました。

高等部より

1月31日（火）に、総合的な探究の時間の報告会を視聴覚室にて行いました。

今年度は各学年でテーマを設定し、1学年は「楽しい余暇の過ごし方について」、2学年は「北海道について」、3学年は「伊達市について発信しよう」というテーマに基づいて体験したことや調べたことをポスターや映像、スライドにまとめ報告しました。



それぞれの報告では、熱の入ったプレゼンテーションが行われ、これまでの学びの深さや広さを垣間見ることができました。